

コード	303030401
記入日	H25.5.31

課コード	110
課名	福祉長寿課
課長名	峯脇 泉
担当者	平尾 好春

事業評価表【途中評価】

作成年度	平成 25 年度
------	----------

評価対象事業名称	地区敬老会補助事業
----------	-----------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	3	政策名称	誰もが安心できる保健・医療・福祉の充実	款コード	3
施策コード	303	施策名称	お年寄りの元気を支える体制づくり	項コード	1
基本事業コード	30303	基本事業名称	高齢者の生きがい対策の推進	目コード	3
事務事業コード	3030304	事務事業名称	敬老事業費	細目コード	232
関連計画		法令・条例規則等			

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1)	70歳以上の町民	(対象指標1)	5,980人			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	・敬老行事を64地区で実施した。 →補助金 64地区 8,970千円	*****	*****	*****	実施地区数÷ 地区・地域数	*****
		①	64地区	100%		平成24年度
		(達成率分析)	予定した地区すべてで実施できた。			
		②				
		(達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		*****	*****	*****	参加者数÷ 対象者数	*****
		①	5,980人	100%		平成24年度
		(達成率分析)	基本的に対象者1人当たりの支給額を決定しているため、全員に記念品が行き渡るようになっている。			
		②				
		(達成率分析)				

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		23年度以前	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 地区数	64	64	68	64	64				
	②									
成果指標	① 人	5,980	5,980	6,035	5,980	5,980				
	②									
総事業費 C (A+B)	千円	63,981	63,981	55,011	8,970	8,970				
直接事業費 A	千円	63,981	63,981	55,011	8,970	8,970				
人件費 B	千円									
内訳	従事職員数	人								
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円								
	県補助金	千円								
	起債	千円								
	その他	千円								
一般財源	千円	63,981	63,981	55,011	8,970	8,970				

評価 (CHECK)

※理由の欄は必ず記載すること。

1次評価	妥当性	・時代情勢、社会環境の変化及び住民のニーズなどを考慮しても、事業を継続する必要がありますか。	● ある ない	理由	高齢社会の中では必要である。
	有効性	・現在の事業の進め方は、期待されるような成果をもたらしていますか。	いる ● いない	理由	合同開催地区では、対象者の参加が加齢に伴い減少傾向にある。
		・事業の成果をさらに向上させる余地はありますか。	● ある ない	理由	開催方法の見直しと地域の自主性を促すことで成果の向上が考えられる。
	効率性	・現在の事業は、費用や業務量に見合った活動結果が得られていますか。	● いる いない	理由	高齢者に敬意を表すものとして妥当である。
・より少ない費用や業務量で必要な活動結果が得られる手法に代えられませんか。		● 代えられる 代えられない	理由	それぞれ地域での開催に向けて検討する。	

改善 (ACTION)

1次評価	前回の途中評価における「改善策」と「その反映状況」	旧町単位2地区での合同開催参加者の減少状況から、対象者が参加しやすい地域開催をそれぞれ打診した。1地区については、次年度からの地域開催の承諾を受けた。1地区については、各地域役員会等へ出向き主旨説明、依頼したが、地元地域の承諾を受けることができず、今年度も合同開催とした。
	今後、課題に向けた改善策	本年度合同敬老会終了後、役員会へ出向き、目で見えて分かる資料等の提供を行い、再度主旨説明・依頼の方向性を考えている。また、地域活性化・自主性を促すうえで、事業の継続は必要と考えている。

2次評価	地区敬老会の実施については、効果があるよう地区と連携した開催のあり方を今後も検討し、対象者が参加しやすい環境づくりに努めること。
------	--

3次評価 住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続				類似事業と整理統合
		●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。